

高齢者等新型コロナ予防接種の前に

ご本人またはご家族がお読みください

◎新型コロナ予防接種の効果

予防接種を受けてから効果が現れるまで約 2 週間程度かかり、免疫がついても発症を予防する効果は 100%ではありません。

また、既感染者であっても再感染する可能性はあり、ワクチン接種による発症予防や重症化予防効果が期待されます。

◎予防接種の副反応

新型コロナワクチンの主な副反応として、注射した部分の痛み、倦怠感、頭痛、筋肉や関節の痛みなどがみられることがあります。できるだけ接種当日・翌日に無理をしないですむように予定を立てておくといでしょう。これらの症状は、たいてい数日以内に軽快することが分かっています。

稀な頻度でアナフィラキシーが発生します。また、頻度としてごく稀ですが、ワクチン接種後に、心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。ワクチン接種後数日の間に、胸の痛みや息切れなどの症状がみられた場合には、速やかに医療機関を受診してください。

◎予防接種を受けることができない方

①発熱がある方（37.5 度以上の発熱）

②重篤な急性疾患にかかっている方

※「重篤かつ急性」の病気にかかっている場合、病気の進行状況が不明であり、このような場合は予防接種を行うことができません。

③予防接種の接種液の成分により、アナフィラキシーなど重度の過敏症（全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下など）の既往歴のある方

④その他、接種医師が予防接種を見合わせるべきと判断した方

『アナフィラキシー』とは、通常、予防接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

裏面もあります

◎予防接種を受ける際に、主治医と十分な相談が必要な方

- ①心臓、じん臓、肝臓、血液、呼吸器等の基礎疾患にかかっている方
- ②過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた方
- ③過去にけいれんを起こしたことがある方
- ④過去に免疫不全の診断を受けた方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある方
- ⑥抗凝固療法を受けている方、血小板減少症または凝固障害のある方は、接種後の出血に注意が必要です。（新型コロナワクチンは筋肉内注射のため）

◎予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- ①予防接種を受けた後24時間は、副反応の出現に注意しましょう。特に、接種直後の30分以内は健康状態の変化に注意しましょう。
- ②ワクチンを接種した日に入浴することは構いません。体調が悪い時は無理をせず様子を見るようにしましょう。
- ③予防接種後24時間は、激しい運動や過度の飲酒などは控えましょう。
- ④接種後、接種部位の異常や体調変化がある場合は、速やかに医師に相談しましょう。
- ⑤新型コロナワクチンは、医師が必要と認めた場合、インフルエンザワクチンなど他のワクチンと同時接種が可能です。また接種間隔に制限はありません。

◎予防接種健康被害救済制度について

新型コロナの予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残したりなどの健康被害が生じた場合、厚生労働省によりワクチンとの因果関係があると認定されると、予防接種法に基づく救済（医療費等の給付）を受けることができます。